

令和2年3月に徳島大学生物資源産業界学部生物資源産業界学科を卒業した中江ひかると申します。現在は現在、長生堂製薬株式会社にて品質管理業務をしています。

就職活動を始めたいきっかけ

大学3年の5月に、就活イベントに友人と参加しました。そこで、就活の基本として「自己分析」の必要性や、「ガクチカ（学生時代に力を入れたこと）」という項目があるのを初めて知りました。私は、就活情報が解禁されてから行動するものだと考えていましたが、自己認識の就活と実際の就活とのギャップを感じ、就活を始めるきっかけとなりました。

大学在学中に取り組んでいて良かったこと

生物資源産業界学部は生物に関連したことを学べるだけでなく、経済・起業なども学んだり、インターンシップ（職業体験）が必修科目だったりします。そのため、他学部よりも様々な体験ができ、視野を広く持てたと思います。例えば、起業では、自身でビジネス

就職



活動記

自分を知って納得内定！ 夢の製薬業界へ



令和2年3月卒業
生物資源産業界学部 生物資源産業界学科
勤務先：長生堂製薬株式会社 生産部門川内工場
出身地：徳島県
中江ひかる（なかえひかる）

プランを考え、学内だけでなく、学外でも発表しました。また、授業では座学だけでなくグループワークも多いので、傾聴力やプレゼンテーション能力が養われ、就活のグループディスカッションや面接にも生かすことができました。特に、応用生命コースの科目には他コースに比べて実験が多いため、現在の業務に共通する部分も多く、

生かすことができています。

就活を振り返って

生まれ育った徳島県に貢献したいという気持ちで最も強かったため、職種や業種は絞らず、徳島県内の民間企業を複数受けました。就活を進めていきながら、自己分析も続けた結果、自分がやりたい

ことが細かく定まっていき、満足いく進路決定ができました。また、旅行などの息抜きを合間にしながら就活に取り組めたので、最後の選考まで自分のペースで進められたのが良かったと思います。

就職してからの現在の状況

現在は、製品の規格試験を行

い、製品の品質を管理する業務を行なっています。コロナの影響で、予定されていた研修等が中止になることもありましたが、実務的な業務に早期に携わることができ、刺激のある日々を過ごしています。また、高校生の頃から興味があった製薬業界に携わることができたため、楽しみながら仕事ができている。今後は、少しでも早く一人前の組織人として働けるよう、何事にも前向きに取り組んでいきたいです。

みなさんへのメッセージ

私がいみなさんに伝えたいことは、自分を見つめ直す重要性です。「自分はどんな時に楽しいか、どんな人に憧れるか、時間も気にせず夢中になったことは？」考える時は小さい頃のアルバムを見ながらや、お風呂にゆっくり浸かりながらなどいいので、一つでも思いついたら記録するといっています。進路決定だけでなく、面接の時にも役に立ちます。自分の将来についてよく考えた分、自分の自信につながると思うので、夢に向かって頑張ってください。心から応援しています。



きっかけ

私は2019年の8月末から9月末までの1ヶ月間、オーストラリアのメルボルンにあるモナシユ大学に語学留学しました。1年次に一般教養で三隅先生の「国際交流の扉を拓く」というグローバル科目の講義を通して、留学生と関わったり異文化に触れたりすることに海外への興味や関心が高まりました。自分の視野を広げ、新たな価値観に出会いたいと思い留学を決意しました。とはいっても英語力への自信はなく、不安を抱えたまま出発の日を迎えました。

留学で学んだこと

留学期間中はホームステイをしながら、平日は語学学校に通い休日は友達やルームメイトと観光地やショッピングへ出かけて過ごしました。語学学校での私のクラスは日本人と中国人が半分ずつづらこのクラスでした。そのため、最初はなじむまで日本人は日本人同

オーストラリア・モナシユ大学 留学体験記

生物資源産業界学部 生物資源産業界学科 3年

野村 咲希（のむらさき）



ホストマザーと



夜景

ルームメイトと友達と(筆者:中央)

クラスの人々と(筆者:左下)

士で話す、中国人は中国人同士で話す雰囲気がありとてもぎこちなかったです。次第に慣れてくると一部の日本人学生と中国人学生は休み時間に雑談をしたり、授業中もとても楽しそうにコミュニケーションをとったりしていました。しかし、私は彼らとなかなか打ち解けることができませんでした。渡航前にクラス分けテストを受験しているため、どの生徒も持っている英語能力は同程度のはずでした。私も一生懸命話しかけましたが、中国人学生は理解しようとする姿勢を見せることなく、聞く耳を持つことさえしてくれませんでした。とても悲しかったし、悔しかったです。お互い母国語訛りがあるため、発音はとも聞き取りづらいのはわかります。それなのになぜ、話せる学生は話せるのに私はうまくコミュニケーションが取れないのか。真剣に考えました。このままでは終われないと思いい、「帰国するまでに絶対に中国人学生とうまくコミュニケーションをとれるようになるのだ」という目標を立てました。まずは仲良くなることからだと思い、

相手のいいところを見つけ褒めたり相手の国の文化や習慣を知ろうと質問してみたり、とにかく関わりを増やすことを意識しました。私が相手について知ろうという姿勢を見せると相手も少しずつ私に対して興味を示してくれるようになっていきました。お互いのことについてある程度知ることになると信頼関係ができます。これがコミュニケーションをスムーズにする上でとても大切だと感じました。当たり前のことではありますが、言語や異文化の壁があったからこそ身をもってその大切さを実感しました。

どちらか一方が理解しようとしていても相手をその気にさせなければ意思疎通がうまくいかないことを学びました。今後社会に出て生きていくうえで、色々な人とコミュニケーションをとる場がたくさんあると思います。まずは自分が相手のことを知ろうとすること、そして相手に自分に興味を持つてもらえるようにすることを心掛けて、今回の学びを生かしていきたいです。